

令和2年2月5日

東広島市防災教育ビデオを用いた研究授業実施のお知らせ

東広島市と広島大学防災・減災研究センターは、令和元年度大学連携政策課題共同研究として「豪雨災害を踏まえた防災教育用教材及び教育手法の開発」を実施中です。本共同研究の一環として、東広島市教育委員会と広島大学防災・減災研究センター（担当：教育学研究科熊原康博准教授）が、小中学生の教育現場で使用する防災教育ビデオを作成しています。試作したビデオを用いた研究授業を下記の要領で実施いたしますのでお知らせします。当日の取材につきましては、教室のスペースの許す範囲でお受けしますので、東広島市教育委員会までお問い合わせ下さい。

また、参考情報として本ビデオの作成目的と概要を下記に紹介しています。

記

1) 研究授業について

日 時	令和2年2月10日（月） 13:50-14:35
実施場所	東広島市西条小学校（東広島市西条中央2丁目15-1）
実施学年	5年生
担当教員	森田 聡先生

2) ビデオ作成の目的と内容

作成の目的

平成30年7月豪雨により多くの土石流災害が発生し、私たちが暮らす身近な地域でも甚大な被害が生じた。それをふまえて、東広島市の災害特性に合わせたビデオ教材を開発することにより、自然災害を「自分ごと」として考えてもらい防災意識の向上をはかることを目的とした。また、教育委員会と広島大学の研究者の連携により、学校現場のニーズに即した防災教育用教材を開発することは、本市の防災教育だけでなく、広島県の学校教育における防災への先駆的な取組事例となりうる。

特徴

- ・2部構成となっており、前半は土石流災害の歴史・特徴・ハザードマップの利用方法を、後半は命を守る防災・減災の取り組みを取り上げた。
- ・内容は東広島市の事例や取材に基づく。特に、水害碑の内容は東広島市高屋町での取材、地域の人々の取り組み（共助）の内容は、東広島市河内町の住民自治協議会への聞き取りをもとに作成した。
- ・小学校高学年や中学生を対象としたビデオであるが、一般の方にも、東広島市における土石流災害の特徴や、地域の防災への先進的な取組について理解してもらえる内容として企画した。

ビデオの構成

前半（約8分）

- 生活と水とのかかわり
- 西日本豪雨災害のおそろしさ
- 水害碑から学ぶ災害の歴史（高屋ロケ）
- 土石流のメカニズム
- ハザードマップをみてみよう



後半（約8分）

命を守る取り組み

- 国、広島県、東広島市の取り組み（公助）
- 地域の人々（河内町や八本松町）の取り組み（共助）
- 私たちができることとは（自助）



【お問い合わせ先】

■取材の申し込み先

東広島市教育委員会指導課 指導主事 清田美紀

Tel：082-420-0976

■共同研究の内容の問い合わせ先

広島大学大学院教育学研究科社会認識教育学講座 准教授 熊原康博

Tel：082-424-7069（不在のことが多いのでメールが確実です）

E-mail：kumakuma@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 2枚（本票含む）